

文化女 大家政 佐藤眞知子 ○渡部旬子 山崎祥子 池田和子 宮川由香

目的：着心地の良い衣服パターン設計のための基礎資料とすべく、動作時の着衣による拘束量と着心地の関係を捉えようとしている。本報では、伸び特性の異なる素材による衣服6着について、着用動作時の衣服圧分布状況を計測し、着用官能量と対照した。

- 方法：①素材はシーチング，タフタ，ワンウェイストレッチ（タテ使い，ヨコ使い），バラシャ，ジャージの5素材6種とした。
- ②実験服のサイズは、9ARに対応させた原型的ジャケットで、単衣仕立てとし同一パターンで、6着製作した。
- ③モデルは9ARサイズに該当する女性1名で、内衣に綿100%の長袖Tシャツを着用した。
- ④使用機器は既報の衣服圧分布計測システムで、これは60個のセンサーを服の右半身の内側に均等配置して縫いつけ、着用時の衣服圧を分布として捉えられるよう試作したものである。
- ⑤計測姿勢は、静立，両上肢前挙（ 45° ， 90° ， 135° ），上挙極限，両肘組の計6姿勢とし、各姿勢5秒間に示した最大圧の分布図を用いて比較検討した。

結果：6種の実験服のうち、ヨコ伸びの大きいジャージとワンウェイストレッチの2着と他の4着間の衣服圧の最大値・分布域において、あきらかな有意差があった。またこれは、着用官能量とも対応するものであり、素材のヨコ伸び特性と着衣の拘束量と着用感との関連をみることができた。